

# 「第37回東海地区みどりの少年団サマージャンボリー」を開催しました

東海三県のみどりの少年団が一堂に集い、自然の中で緑の大切さを学び、交流を深めることを目的とした「みどりの少年団サマージャンボリー」(国土緑化推進機構、三菱UFJ環境財団及び愛知県・三重県・岐阜県の各緑化推進委員会主催)を、8月1日(水)から8月3日(金)までの3日間の日程で、愛知県新城市鳳来寺地内の「愛知県民の森」において開催しました。

恒例の「東海三県みどりの少年団サマージャンボリー」を、今年は水源の森百選、森林浴の森百選の指定を受けている「愛知県民の森」において、2泊3日の日程で開催しました。

森林環境学習では日本植木協会の講師から「緑のお話」と題した講話を聞き、体験活動では実際に除伐作業の体験や森林整備地の見学を行い、森林の役割や緑の大切さについて学びました。

そのほか班旗の作成、野外炊飯、水遊び、キャンプファイヤー、交歓会などの盛りだくさんの活動に取り組みました。

参加者は、愛知・三重・岐阜の11少年団87名(引率者含む)で、岐阜県からは、多良峽もみじ少年団、海津市みどりの少年団、牧谷小みどりの少年団の3少年団34名(引率者含む)が参加し、共同生活を通じて活発に愛知県、三重県の少年団の子供たちと交流を深め、楽しい思い出をいっぱい持って帰宅しました。【(公社)岐阜県緑化推進委員会 専務理事 佐藤正吉】



▲講話「緑のお話」



▲森林整備地見学



▲班旗作成



▲野外炊飯



▲水遊び



▲除伐の体験

# 「岐阜県みどりの少年団交流集会」を開催しました

8月10日(金)、関市小屋名の岐阜県博物館において「平成24年度岐阜県みどりの少年団交流集会」を、県内のみどりの少年団11団体97名(引率者含む)の参加を得て開催しました。

交流集会の一環として行っている「みどりの少年団活動発表」では、東白川緑化少年団、加子母中学校緑化少年団、宮川小みどりの少年団の発表及び、昨年度この発表において最優秀に選ばれた牧谷小みどりの少年団の特別発表が行われ、植林や間伐などの森林整備活動、樹木や水質調査などの学習活動、シイタケ栽培等の体験活動などについて、パワーポイントを使って元気に発表してくれました。

審査の結果は、審査員長の今井猛関市立下有知小学校長からの講評の後で発表され、今年度の最優秀には東白川緑化少年団(東白川村)が選ばれました。

午後からの交流活動では、当博物館で特別展として開催されている「ジオベディアぎふ」や常設展示物について学芸員の方から説明を受けました。

また、百年公園内の森の中に入り、人工林や里山林などの特徴について観察をするなど、夏休みの一日を楽しみました。

【(公社)岐阜県緑化推進委員会 専務理事 佐藤正吉】



▲参加したみどりの少年団のみなさん



▼活動発表の様子

▼百年公園内の森林について説明を受ける



▶特別展「ジオベディアぎふ」の説明を受ける

